茨城のマルチ・ステークホルダー・プロセスの取り組み

開催日：2014年8月29日（金）
会　場：ブランニューキタカミ　コンベンションホール
認定NPO法人 茨城NPOセンター・コモンズ
事務局次長／いばらき未来基金事務局担当
大野 覚（オオノ サトシ）

COMMONS

本日のメニュー

1. これまでの経緯
2. これまで関わった事例
3. 事例①：タウン・モビリティ
4. 事例②：学びと交流の秘密基地
5. マルチ・ステークホルダー・プロセスの仕掛け方

1. これまでの経緯

1999年から毎年「茨城NPOフォーラム」を開催してきた「SRネット茨城」の実績が評価され、2011年2月に都道府県単位で全国初の「地域円卓会議 in 茨城」を開催

※「地域円卓会議」や「SRネット」については別紙参照

2. これまで関わった事例

- コモンズが仕掛け、コモンズ以外が中心となって進めている事例もある（別紙参照）
- 「地域円卓会議」を行っている取り組みもあれば、各組織と個別に事業連携しているものもある

COMMONS

3. 事例①：タウン・モビリティ（1/2）

低床バスが少なく、車イス利用者が移動しにくいまちは、さらに人が寄り付かなくなる

行政
公共交通の利用促進や地域のバリアフリー化を進めたい

特別支援学校
生徒の作品の展示・販売拠点をまちなかに

バス会社
車イス利用者に低床バスを利用してほしい

祭りの際に、外出の機会をつくろう

高校
総合文化祭に向けてボランティアの機会を

大学
バリアフリーの研究で協力したい

商工会議所
既にあるバリアフリーマップを使い、集客につなげたい

飲食店
バリアフリー化したトイレを利用してもらいたい

COMMONS

3. 事例①：タウン・モビリティ（2/2）

COMMONS

4. 事例②：学びと交流の秘密基地（1/2）

一人親世帯の増加などにより、子どもの学習の遅れが目立つ。貧困の連鎖につながる恐れが

大学・教授
地域連携事業の実績をつくり、学生の活動の場を得たい

大学生
東京や埼玉のように自分たちにもできるかも

不動産会社
遊休施設を地域活動に活用してほしい

遊休施設で夏休みに大学生主体の学習支援・居場所づくりを

中学校
学習の遅れが目立つ生徒の居場所と学習支援を

行政
生活困窮者自立支援法施行の体制づくりを

法テラス弁護士
生活困窮者を生まないために、高校進学は必須

学童保育団体
一人親世帯が増え、子どもの学習が心配

COMMONS

4. 事例②：学びと交流の秘密基地（1/2）

COMMONS

5. マルチ・ステークホルダー・プロセスの仕掛け方（1/4）

パターン	仕掛け方	課題・難しさ
パターン①	ある共通の「事業」に関わりそうなキーパーソンに集まってもらう（取り組む事業のイメージがある程度できている）	課題の共有はしやすいが、協働事業につなげるには企画力がいる
パターン②	ある共通の「地域課題」に関わる多様な関係者に集まってもらい、協働でできる事業を企画段階から一緒に考え、組み立てる	関心が重なる事業テーマを選び、各組織の特性が生きる新たな事業を作りこみ、さらに「出席者」から「仲間」に変え、本気にさせる仕掛け人（または組織）が必要

※ セクターやジェンダー、年齢のバランスになるべく配慮して参加者を集める（「よそ者」「若者」「ばか者」が活きるように）

※ 参加者があまり多くても発言時間が限られてしまうので、多くて10名弱に

COMMONS

5. マルチ・ステークホルダー・プロセスの仕掛け方（2/4）

- 「始めから落としどころを決めない」のが原則。落としどころが前面に出ると、議論の誘導になる。協働でできることの「ワクワク感」を感じさせることが大切。「生みの苦しみ」が長いほど、達成感や「一体感」も格別

  →この一体感により、被災地支援等緊急時の連携が可能に

- とはいっても、議論の展開を読む「プロデューサー」（仕掛け人）的視点が肝心（会議のファシリテーション能力だけではダメ）
- セクターや組織の代表性にこだわり過ぎると自由な議論をしづらくなる（一方、あまりにも個人的な発言だと実効性が薄れるので、自分の組織や同じセクターの他の組織を若干意識してもらう「バランス」が必要）

COMMONS

5. マルチ・ステークホルダー・プロセスの仕掛け方（3/4）

待ち受ける困難	乗り越える方法
来てほしい人が、関心を持ってもらえず来ない	• テーマが、相手の活動に関わり、参加することにメリットがあることを丁寧に説明 • 「こういう人に会える」と面白いメンバーで関心を引く • 課題を感じていそうな人、面白い話ができる人を探す • 他の協議の場との違いを示す • ゴールが不明と言われたら、できるだけ見通しを示す • 合意の仕方や範囲、役割を示す
他の参加者が行うだろうと考え、動きが鈍い	• 他地域での同様な組織の関与事例を示す • 他のメンバーを前向きにさせ、外堀を埋める
組織内部の協力がなかなか得られず態度保留	• その人が動きやすくするための理由を探り、材料を提供 • 実績をつくり、参加しやすい状況をつくる • 組織決定できる立場の人に直談判 • 上部組織や議会の力を借りて後押ししてもらう

COMMONS

5. マルチ・ステークホルダー・プロセスの仕掛け方（4/4）

- 普段から、キーパーソンとの出会いを大切に
- メンバーの相性や組み合わせに配慮
- メンバー同士の交流や飲みニケーションも大切に
- メンバーのちょっとしたアイディアをできるだけ活かす
- 一緒に成功体験を味わえそうな活動のひらめきを大事に、少しでも実践し、「前に進んでいる」感覚を感じてもらうことが大切
- 議論が停滞した時は、新たな参加者を誘い込んだり、先進事例を聞くなどもう一度火を起こす
- 常に次の展開をイメージする

SRネット茨城とは

「地域のパートナーシップを拓く SR ネット茨城」（略称：SR ネット茨城）は、茨城県内の組織の社会的責任（Social Responsibility＝SR）の向上や地域貢献活動を、企業、労働組合、マス・メディア、生協、教育機関、NPO、行政など地域を構成する様々な組織が連携して行っていくネットワークです。

SRや地域貢献に関する情報交換の場を設けることで、それぞれの活動のレベルアップと、地域の課題解決に向けた連携を促し、組織や地域の価値を高めていくことを目的としています。

SR（社会的責任）とは

CSR（＝Corporate Social Responsibility＝企業の社会的責任）という言葉を聞いたことはありませんか？営利組織である企業も公益的な活動を行います。また、これからの時代は企業だけではなく、行政、NPO、労働組合、生協、マス・メディア、教育機関など地域を構成する全ての組織が社会的責任（SR）を問われます。

社会の持続性を維持するため、法令順守・義務だけではなく、関係者（ステークホルダー）の期待にどう応えるかを考え、社会への配慮を自主的に業務に統合することが求められます。地域の課題について、このままで良いか考え、ステークホルダーと対話し、協働することが重要になります。SR とは、社会を学ぶことです。

マルチ・ステークホルダー・プロセスとは

地域の課題を解決するためには、ステークホルダーとの対話と、互いの強みを生かした協働の実践が求められます。この多様な関係者による地域課題の解決のプロセスをマルチ・ステークホルダー・プロセスと呼びます。この具体化の試みが「地域円卓会議」です。

SRネット茨城の連携組織

（2012年８月現在、順不同）

一般社団法人 茨城県経営者協会

日本経団連の一員として、良好な労使関係の確立、企業内部における能力開発、人事労務管理を中心として企業の体質強化に努める一方、環境経営の推進や企業の地域貢献活動などへのサポートを行っています。

株式会社 茨城新聞社

茨城新聞社は 1891 年（明治 24 年）の創刊以来、120 年以上にわたって茨城県民とともに歩んできました。「地域応援宣言」を企業理念に掲げ、地域密着型の報道を展開するとともに、市民社会の発展に向けた協働を推進します。

生活協同組合 パルシステム茨城

「一人ひとりの愛と 自立した協同の力で 心豊かなくらしの創造と 誰もが公平に生き続けられる社会を目指します」を理念に、地域社会貢献活動に取り組んでいます。市民・各団体や行政と連携し、誰もが安心して暮らせる社会づくりを目指しています。

日本労働組合総連合会茨城県連合会（連合茨城）

連合茨城は県内に働く 12 万 8 千人の勤労者が加盟する労働組合の団体です。「ゆとり」「豊かさ」「公正な社会」の実現を目指して、職場・地域において取り組みを進めています。

認定NPO法人 茨城NPOセンター・コモンズ

茨城県域の市民活動支援ネットワーク組織として、市民団体の設立・運営相談対応、NPO 講座やイベントの開催、協働の推進や NPO のネットワーク形成、寄付を仲介する基金の設立、福島県からの避難者や在住外国人の自立型コミュニティ形成支援などを通じて、茨城の市民活動の芽を育てています。

SRネット茨城事務局

認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ内
〒310-0022
茨城県水戸市梅香 2-1-39 茨城県労働福祉会館 2 階
☎：029-300-4321　　FAX：029-300-4320
e メール：info@npocommons.org

地域をつなぎ、未来をつくる

地域のパートナーシップを拓く

SRネット茨城

SRネット茨城の取り組み

地域円卓会議の開催

社会的責任を果たすために、各セクターの組織が連携して地域の課題解決にあたるマルチ・ステークホルダー・プロセスの実践として、茨城で地域円卓会議を開催しています。中央で過去数年間開催されている「社会的責任に関する円卓会議」の地域版として、2011 年 2 月に全国で初めて開催しました。現在も多様な組織が継続的に協議を行っています。

また、2012 年 2 月には、地域円卓会議を多くの人に体験してもらおうと、参加型ワークショップである「新しい公共フォーラム」を開催しました。2012 年度も開催予定です。

＜現在協議しているテーマ＞

テーマ１：「茨城の農業の支援と新たな仕事づくり」
テーマ ２：「『新しい公共』を広げるための地域資源循環の仕組みづくり」
⇒いばらき未来基金設立の具体化へと発展
テーマ３：「交通困難者の外出・買い物支援」
⇒水戸でのタウン・モビリティ実践へと発展

SRネット茨城の連携組織によるSRの実践

SR ネット茨城自身が、様々な社会課題解決に向けて取り組んでいます。最初のモデル・テーマとして取り組んだフードバンク（※）は、フードバンク茨城として NPO 法人化され、現在も活動を続けています。

※ 企業や農家などから規格外食品をいただき、福祉施設など食を必要としているところに配る活動

SR活動普及のための例会やフォーラムの開催

茨城における重要な地域課題について先駆的に取り上げ、例会やフォーラムを開催しています。ぜひご参加ください。

＜過去の開催テーマ＞

- SR に関する ISO26000 という新基準策定の動向
- 企業の社会的責任（CSR）
- 外国人受け入れ問題に関する企業の責任と外国人に対する生活支援
- 地域の農地と農業を考える
- ワーク・ライフ・バランス

他の組織との連携についてのご相談に対応します

地域の様々な組織と連携し課題解決にあたるには、連携相手の特徴や強みなどを十分に理解した上での適切な提案や、協議を円滑に進めるためのファシリテーションなどコツが必要です。「地域円卓会議コーディネーター養成講座」の開催や、地域連携についての相談対応を通じて、マルチ・ステークホルダー・プロセスの普及や、地域連携の効果を高めます。

つながることで生まれた成果

SR ネット茨城は、そのゆるやかなネットワークにより、組織同士の連携による取り組みを行いやすい土壌があります。

1. 全国で初めて開催できた地域円卓会議

茨城が全国初の地域円卓会議開催地に中央から選ばれた背景には、00 年から SR ネット茨城連携組織により開催していた「茨城 NPO フォーラム」によって、ゆるやかなつながりができていたからです。組織連携する際には、日常のつながりがその効果を発揮します。

2. 東日本大震災時に活きたつながり

地域円卓会議を開催した直後、東日本大震災が発生しました。地域円卓会議などを通じて培ったつながりが、非常時に活かされました。あるバス会社が食糧難の最中、休みなしでバスを運行している際、被災者支援活動を始めた茨城 NPO センター・コモンズから茨城県経営者協会の紹介を経て、バス会社に食料が配布されました。また、SR ネット茨城連携組織による常磐地域の被災者支援活動「ホープ常磐プロジェクト」が生まれ、北茨城やいわきへ救援物資を運び、ボランティア・バスを運行しました。このプロジェクトは現在、福島県からの避難者同士のつながりを側面的に支援する「ふうあいねっと」という県域のネットワーク活動に引き継がれています。

3. フードバンク茨城やいばらき未来基金の誕生

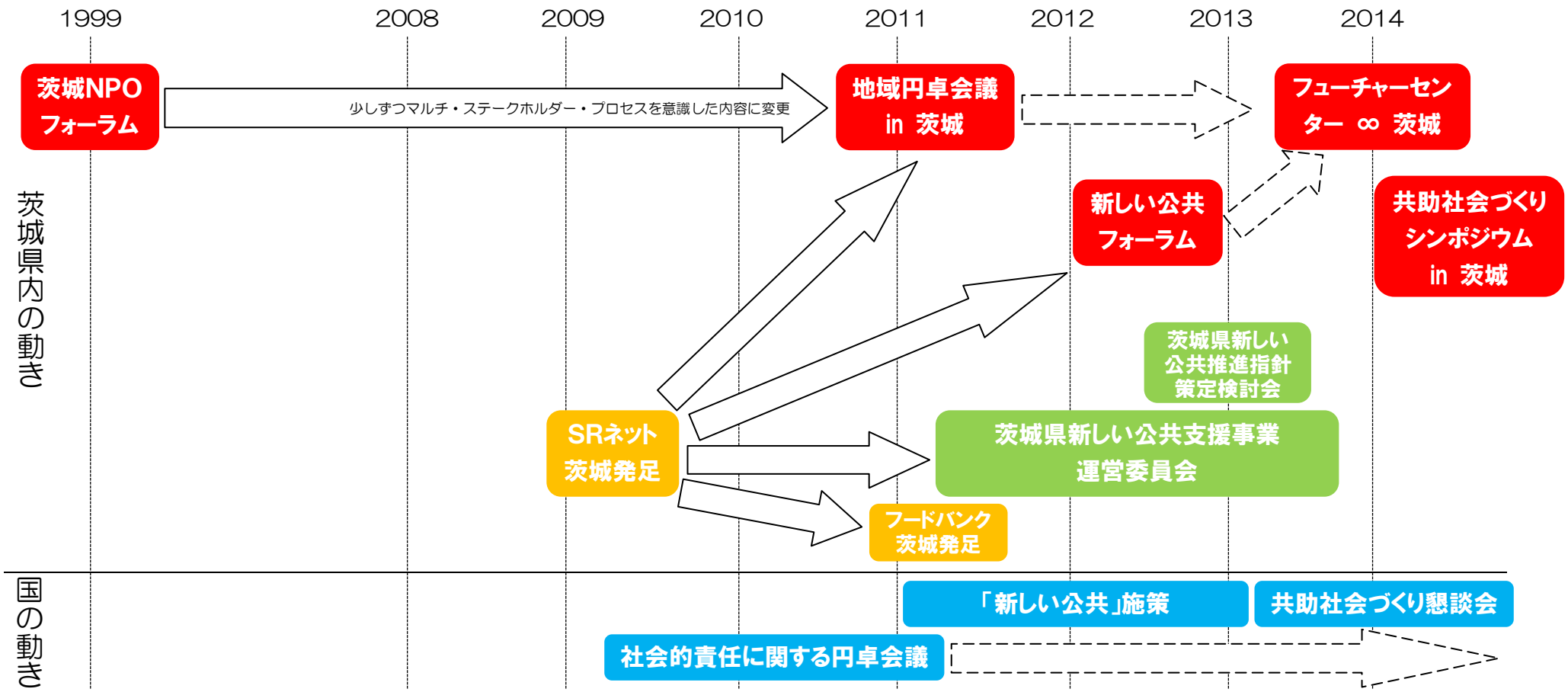
SR ネット茨城での調査、勉強会から、規格外食品を活用して食の課題を解決する「フードバンク茨城」が生まれました。また、地域円卓会議の協議を経て、市民からの寄付を仲介し、地域の課題解決に本気で取り組んでいる市民活動団体を支援するための「いばらき未来基金」発足につながりました。このように、SR ネット茨城や地域円卓会議自体が、新たな社会課題解決の取り組みを育む土壌となっています。

これまでの茨城での「マルチ・ステークホルダー・プロセス」推進の取り組み

作成日：平成 26 年８月５日

作成者：地域のパートナーシップを拓く SR ネット茨城（略称：SR ネット茨城）

（事務局：認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ）



これまでの茨城での「マルチ・ステークホルダー・プロセス」推進の取り組み

行事名	茨城 NPO フォーラム	地域円卓会議	新しい公共 フォーラム	フューチャーセンター∞ 茨城	共助社会づくりシンポジウム in 茨城（仮）
実施期間	1999 年～2010 年	2011 年～	2012 年～2013 年	2013 年～	2014 年 10 月
開催頻度	年１回	適宜開催	年１回（2013 年は２回）	数か月に１回	年１回？
開催地	水戸	水戸	水戸と土浦	トモスみと業務ビル４階	水戸
対　象	NPO に関心がある市民や企業、行政関係者など（2009 年頃から、社会的責任に関心がある人を主な対象とした）	3 つのテーマのいずれかに関心のある方、もしくは円卓会議の仕組みに興味のある方	関心ある地域課題について、他の組織と連携して解決したい方	● 誰かと協力して夢を叶えたいと思う方 ● 異業種での交流・連携に関心がある方 ● 市民発の新たなプロジェクトづくりや交流空間づくりに関心のある方	● 見守りに関する団体 ● 困窮者の自立支援に関わっている NPO ● 市町村市民活動担当部局職員、社会福祉協議会職員 ● 参加を希望する県内市民活動団体、企業、労働組合、生協など
形　態	基調講演と分科会	基調講演と円卓討議	地域円卓会議の説明と事例紹介、体験型ワークショップ	マルチ・ステークホルダー・プロセスの説明とお見合い会、ワークショップ	鼎談とパネル・ディスカッション
内　容	NPO 先進事例の紹介 ※　2009 年頃から、マルチ・ステークホルダー・プロセスの実践事例や社会的責任に関する取り組み事例の紹介	2011 年２月に下記３つのテーマで地域円卓会議を都道府県単位では全国初開催。以後、各テーマが実践に向けて必要に応じて開催。 テーマ １：『茨城の農業の支援と新たな仕事づくり』 テーマ２：『「新しい公共」を広げるための地域資源循環の仕組みづくり』 テーマ ３：『交通困難者の外出・買い物支援』	地域円卓会議を体験し、新たな活動が生まれるよう支援。2013 年度は下記テーマで体験型ワークショップを行った。 ● 地域の農業支援と新たな仕事づくり ● 交通困難者の外出・買い物支援 ● 子どもたちへの市民教育 ● 団地コミュニティの再生 ● 子育て支援 ● 福島からの避難者の生活支援 ● 発達障がいを抱えた方の就労 ● 在住外国人の生活支援	未来志向で対話し、共創の種を生み出す。共創空間コーディネーターが新たな出会いをマッチングする。 第１回 ● フューチャーセンター説明 ● 参加者同士によるお見合い ● 共創プロジェクトの企画・発表 第２回 ● フューチャーセンターや、前回以降に生まれた「共創の種」の紹介 ● 活動アイディアの共有とブラッシュ・アップ、プレゼン ● 柏でのフューチャーセン	鼎談：「共助社会づくりについて」 パネル・ディスカッション 第１部：「共助社会は、人が隣人に関心をもち、助けてといえる社会」 第２部：「地域で資源を提供しあって支え合う関係づくり」

これまでの茨城での「マルチ・ステークホルダー・プロセス」推進の取り組み

行事名	茨城 NPO フォーラム	地域円卓会議	新しい公共 フォーラム	フューチャーセンター∞ 茨城	共助社会づくりシンポジウム in 茨城（仮）
				ターの取り組み紹介 ＜テーマ＞ 1. 障害への理解 × 映画上映 ⇒ 居場所づくり 2. フェアトレード × 販売場所 ⇒ 買い物で社会貢献 3. 遊休農地 × 園芸療法 ⇒ ユニバーサル農業 4. 学びのサポート × 居場所 ⇒ 子どもの貧困防止 5. 学校教育 × 持続可能な開発のための教育（ESD）⇒ 家庭廃油の循環	
主　催	大好き いばらき 県民会議、茨城県経営者協会、茨城新聞、茨城 NPO センター・コモンズ ※　2010 年はパルシステム茨城と連合茨城も参加	地域円卓会議 in 茨城 2011 実行委員会（参画組織：SR ネット連携組織の他、茨城県、水戸市、水戸商工会議所）	新しい公共フォーラム実行委員会（参画組織：SR ネット茨城連携組織の他、茨城県）	SR ネット茨城	内閣府、茨城県、大好き いばらき 県民会議、茨城 NPO センター・コモンズ ※　SR ネット茨城は運営協力
財　源	主催団体共同負担	主催団体共同負担	茨城県新しい公共支援事業予算を活用	主催団体共同負担	主催・協力団体共同負担
成　果	県内に NPO や SR に関する先進事例や理解を広めた	都道府県単位での地域円卓会議を初めて開催し、全国に発信できた。また、3 つのテーマが実践に向けて独自に継続協議を行い、いばらき未来基金の設立、タウン・モビリティの実践などにつながった。	県内各地域に地域円卓会議が広がるための体験のきっかけづくりに役立った。この協議から「食と農のギャラリー葵」の開店など実践につながった。	新たな出会いと、共創による活動が生まれた。「グローカルフェスタいばらき 2014」の開催、水戸市双葉台での生活困窮家庭学習支援、精神障がいに関する映画上映など新たな活動が生まれた。	

茨城NPOセンター・コモンズが関わったマルチ・ステークホルダー・プロセスの取り組みの一例

整理番号	キーワード	課題	取り組みやその成果	コモンズの役割	各セクターの組織の役割								
					NPO	市民	労働組合	企業・団体	経済団体	生協・消費者	教育機関	その他の産業	行政・社協
1	・食品ロス ・食の安全保障	・食べられるものが捨てられていてもったいない ・食が得られない人の増加	NPO法人 フードバンク茨城が設立され、生活困窮者などへ食糧支援	事務局を一時担い、分離独立させ、運営支援	・フードバンク活動を実施 ・社協や福祉団体へ食品を届ける	・ボランティア参加 ・フードドライブなどを通じた食糧の提供 ・農家の収穫支援		・食品メーカーが食品を寄贈 ・配送や備蓄への協力	食品企業への協力を呼びかける	・先進地への視察同行 ・組合員や提携農家などに食品提供を呼びかけ ・倉庫の一部を貸出	・PTAの家庭教育学級などを通じ、学校内フードドライブ実施 ・学生ボランティア、卒論研究	・農家が市場に出せない野菜を提供 ・メディアが活動を定期的に取材	・生活困窮者にフードバンクからの寄贈食品提供 ・他の組織への連携呼びかけ
2	地域資源の循環	市民活動に取り組む団体への資源仲介機能が必要	「いばらき未来基金」を設立し、市民や企業からの寄付を仲介	地域円卓会議をプロデュースし、基金を設立・運営	・寄付集めを協力 ・助成金申請	・基金を通じて、県内の地域課題を知り、寄付 ・寄付集めなどにボランティア参加	職場内寄付の推進検討	・チャリティ・イベントへの協力 ・ゴルフ・コンペの賞金などを寄付 ・寄付つき商品の開発	企業への協力呼びかけ	・寄付つき商品の開発・販売 ・組合員への広報	・高校生の募金活動 ・寄付教育へつなげる	メディアが活動を定期的に取材・特集	基金の広報支援
3	・中心市街地の衰退 ・農産物販売 ・農村地域への観光	街に八百屋がない。「食の砂漠化」＋空き店舗対策＋グリーン・ツーリズム	水戸の中心市街地のシャッターを閉めていた店舗を改装し、農村地域の野菜や加工品を販売するアンテナ・ショップを生協が経営	この動きにつながる地域円卓会議をコーディネート	ひきこもり青年支援団体も販売に協力	買い物を通じた地域の仲間づくり		商店街で場所を提供し住民ニーズ把握、宅配ビジネスへ	商工会議所で商店街のトイレマップづくり	・店舗運営 ・地産地消をPR ・組合員への広報	・学生が販売アルバイト	・農業団体が野菜の産直 ・グリーン・ツーリズムにつながるよう農村をPR	住民への広報協力
4	・公共交通 ・移動困難者	低床バスが普及しておらず、中心市街地のバリアフリーが進んでいない	毎年行われる水戸市主催イベントと併せ、「タウン・モビリティ」を実施	地域円卓会議をプロデュースし、タウン・モビリティを実施	・障がい者就労支援施設がクッキーなどを販売 ・試乗する車イス利用者を集める	・バスの乗降支援など、車イスの移動介助ボランティア ・車イス利用者も積極的にまちなかへ		・バス会社が低床バス試乗会に協力 ・百貨店が視覚障がい者用音声案内機のテスト設置	商工会議所が低床バス試乗会を企画	組合員へのボランティア募集	・特別支援学校の障がいがある生徒の作品展示・販売 ・学生のボランティア		・住民への広報 ・障害者のバス料金割引
5	外国人の就労	日系人などが定住化しているが、工場以外の就職先が少なく不安定な生活	ヘルパー資格取得や日本語学習の支援による新たな雇用につなげた	・就労支援の実施 ・地域円卓会議をプロデュース	ヘルパー資格取得や日本語学習の支援	・日本語ボランティア ・外国人との交流	福祉職場の労働環境改善	福祉施設での外国人介護職の採用	外国人採用企業への協力よびかけ		・日本語を学べる場を増やす ・様々な職種の専門学校での外国人の受け入れ体制づくり		事業委託
6	外国人児童の教育	・言葉の壁で学習に遅れ ・不就学児童生徒 ・進路が限定されがち	サマー・スクール、アフター・スクールでの学習支援	・サマー・スクール、アフター・スクールを実施 ・地域円卓会議をプロデュース	・学校と協力して補習や日本語を学ぶ場づくり ・当事者グループづくり	・学習支援ボランティア ・外国人の親に対する支援	将来、従業員となる子どもの教育支援 （学習補助ボランティア） （子どもたちの職業教育支援） （親の就労環境の改善）			・寄付つき商品の開発・販売 ・組合員への広報	・サマー・スクール、アフター・スクールの開催案内の配布協力 ・学生による学習支援ボランティア		・公立学校の通訳配置 ・外国人学校への支援
7	被災地支援	東日本大震災被災地への救援物資を届け、ボランティア・バスを送る必要があった	地域円卓会議などで構築した協力関係により、迅速に物資輸送＆ボランティアのコーディネート	物資輸送＆被災地支援ボランティアのコーディネート	・被災地の状況提供 ・物資や寄付の呼びかけ ・運搬コーディネート	・救援物資や寄付の提供 ・ボランティア参加	・ボランティア参加 ・救援物資保管場所の提供	・救援物資や寄付の提供 ・トラック貸出 ・バス会社がボランティア・バス協力 ・ボランティア・バスのための駐車場一時提供	・企業への協力呼びかけ ・食糧が底をついたバス会社のニーズを伝達	・救援物資や寄付の提供 ・トラックや倉庫貸出 ・組合員のボランティア参加 ・炊き出し支援	学生ボランティア	メディアが救援物資やボランティアの呼びかけに協力	ボランティア・バスの駐車スペースを一時提供
8	原発事故による避難者	避難者の孤立	情報誌の定期的作成・配布	編集会議のコーディネート、ネットワーク組織の運営と分離独立＆運営支援	サロン活動などの情報提供	情報誌を読んで、自分にできる支援を考える（寄付やボランティアなど）		茨城での住宅事情について情報提供		組合員へ寄付やボランティアの呼びかけ	生徒のボランティアや募金協力		住所ラベルを貼って情報誌を郵送
9	生活困窮家庭	一人親世帯の増加などにより、子どもの学習の遅れが目立つ	大学生主体の学習支援チームが活動開始	・地域円卓会議をプロデュース ・いばらき未来基金で活動助成	東京の先進事例を紹介	学習支援ボランティア参加		学習支援のため、遊休施設で会場を提供			・子どもたちが通う学校でのチラシ配布協力 ・学生による子どもたちの学習支援 ・子どもたちの参加呼びかけ	・自治会が夏祭りでのチラシ配布を協力 ・メディアが取り組みを紹介し、子どもの参加を募る	行政が把握する生活困窮家庭への情報提供を検討中